

研修名 マネジメント

平成30年1月29日(月)

13:30~16:00

指導助言 東京家政大学 増田 まゆみ 氏

1 講演要旨

① 愛光子ども園「A君の成長」

1歳2ヶ月でにゅえんしたA君。はじめは泣いてばかりだったが、人のかかわりを通して一緒に遊んだり、玩具を取り合ったり、異年齢と関わったりして、表情が明るくなり、言葉も出たり、動きも活発になってきた。

助言：保護者の変化もいれると、なお良い。

② 中保育所「保護者への発信」

連絡ノート、クラス便り、ドキュメンテーションで発信している。子どもたちの発達に合った遊びをみとり、学びを正しく伝える。子どもの姿、育ち、学びを共有することで乳幼児期の教育、集団生活の大切さを伝えることが出来る。

助言：成長を実感できる

③ 今里保育園「0, 1歳児の保育環境～手作りおもちゃ～」

牛乳パックの乗り物、ころころなどのおもちゃの紹介。おもちゃであそんでいる子どもたちは保育士の考えた以上の遊びをしていた。

助言：今まで見えなかったことに気付ける。子どもの興味、関心が変わっていくことにおもちゃも変化していく。

④ 岡田保育園「私たちの伝えたいこと」

クラスごとにクラス便りを発行している。2年前は、活動名、その様子、全体的な様子、子どものうぶやきを書いていた。今は一人ひとりの遊びのすがた、遊びのプロセス、子どものつぶやき、写真を掲載し、保育者の意図や思いが伝わるようにしている。

助言：遊びを通して考えることは大切。2年前と比べて進化している。

⑤ 大井保育園「楽しい 大好き 外遊び」

まっすぐ走れない、こけても手がでないこが増えている。子どもの体力の低下が目立つ。アンケートをとると、22時以降に寝ている子が2割以上。6割の子が10時間以上寝られていない。家に帰っても、ほとんどテレビを見てい

る。そこで公園マップを作成した。遊具や植物、危険箇所、トイレの有無、公園の入り口を詳しく掲載する。また、保護者と遊べるよう、ボール送りや新聞ライナー、レジ袋の凧揚げなどを参観で紹介する。

助言：自然との関わりを意識して伝える。調査を調査でとどまらず、ひろげていく。

⑥ 愛光子ども園「異年齢交流 お店屋さんごっこ」

毎週水曜を仲良しデーにしている。お店めぐりをしてあと、お店屋さんの商品作りをした。困っている3歳児に5歳児が気づき、手伝ってあげていた。

助言：異年齢の中での育ちあいは自然に交流が始まる。

⑦ ひいらぎ子ども園 「自立心を育む保育者の支援」

園庭に出来た山に登ろうと挑戦する。くぼみを利用したり、4歳児に手伝ってもらったりしたが、できず泣いていた。何度も諦めず挑戦し、一人で上ることができた。自立心から友達との関わり、そして共感、喜びにつなげていく。

助言：一緒に登ったほうが早い、待ってあげたり、丁寧に関わったりしてあげることが大切。

2 感想

プレゼンやドキュメンテーションにまとめることで、自分の保育を見直すきっかけになる。このときはこれで良かったのか、と改善するところがわかりやすい。保育を見直すことは大切なことだと改めて感じた。

大井保育園がとアンケートはどの保育園でもとったほうがいいと思った。結果によって保護者援助などが変わってくると思う。さまざまな家庭があるので、何を求められているのか見極めて今後も保育していきたい。

(記録 くすのき保育園 辻本千尋)